



## ニ入学ニ卒業

おめでとぅニございます

### ニ入学

★天塩小学校

《南 町》石山 和魅

《更 岸 南》奥山 花蓮

《富士見田地》木谷 椿

《山手通2》桑田登乃子

《山手通4》小山 偉士

《新栄通2》佐久間海來

《更岸中央》中島 広雅

《辰 子 丑》南條 碧友

### ニ卒業

★天塩中学校

《南開田地》加藤 桃香

《山手夏通4》黒川 真優

《山手夏通4》小林 環子

《富士見田地》佐藤 柚希

《山手通4》菅井 海志

《新栄通2》菅井 華音

《山手夏通3》龍川 和郷

《山手夏通7》武田 穂

《南開田地》田中 惟菜

《苗 畑》谷村 心菜

《海岸通11》長尾 歩純

《更岸中央》長谷川 巧

《更岸中央》長谷川美沙

《新栄通10》松本 芽生

※同意いただいた方のみ掲載しています。



## 落花生？大豆？ 節分の豆事情

皆様こんにちは。天塩町地域おこし協力隊の前川です。

2月3日の節分の日、認定こども園「おひさま」では園児たちが豆まきをしたと聞きました。そこで「北海道では、どんな豆をまくのか？」と気になり調べてみました。

節分でまかれる豆は主に大豆と落花生の2種類です。近年は衛生面やアレルギーへの配慮から、個包装の豆やお菓子を使う例も増えているようです。地域差を見ると、北海道・東北・新潟・長野などの雪国では落花生が主流です。九州でも落花生の産地である宮崎・鹿児島では落花生がまかれます。それ以外の地域では大豆が一般的です。

ももとは大豆をまくのが主流でしたが、雪国で落花生が広まった理由には

- ・雪に埋もれても見つけやすい
- ・地面に落ちて殻があるので中身は食べられる
- ・栄養価が高い

といった点が挙げられます。北海道では昭和30年代ごろに普及したと言われています。

節分の起源は平安時代の宮中行事「追儺(ついな)」で、悪霊を祓う儀式が民間に広がる中で豆まきの形が定着しました。地域ごとに掛け声や豆の種類が異なるのも、長い歴史の中で育まれた文化です。

旭川周辺では「旭豆」という豆菓子をまく家庭もあります。また、落花生文化が根づいた地域でも、神社や寺院の節分祭では伝統を重んじ大豆が使われています。

認定こども園「おひさま」の豆まきでは、紙製の豆を使って鬼退治を楽しんだとのこと。時代に合わせて形を変えながらも、節分を楽しむ気持ちは変わらず受け継がれていると感じます。

ちなみに、私の出身地・岩手県釜石市では落花生をまいていました。同じ日本でも節分の風景が少しずつ違うのは興味深いものです。

